

# 「学校」を拠点とした地域社会と参画型市民の育み ～地域のなかで誰もが「親性」を発揮する～

(和歌山大学教育学部 本村めぐみ)

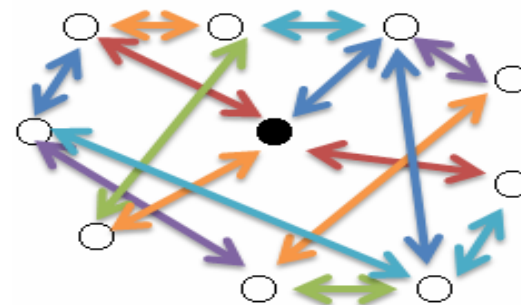
平成22-23年度独創的研究支援プロジェクト事業報告

## 1. 概要

\*本事業は、和歌山県橋本市教育委員会「家庭教育支援室」との協働プロジェクトである。学校教員・行政（家庭教育支援室・学校教育課・社会教育課）・市民（家庭教育支援員・大学生・大学教員）から構成する推進委員会を立ちあげ、以下の研究と取組みをすすめた。

【目的】「地域社会全体で関わる子育て」の実践方法として「学校」を拠点とし、地域社会で協働連携が求められる**保護者・教員・市民**を対象に**対話と議論をもたらすワークショップ（※）**を継続実施。その成果を「親性」と「市民性」発揮の観点から問う。

※ワークショップ：  
参加者が自ら参画・体験し、  
共同で何かを学びあったり  
創り出したりする  
学びと創造のスタイル  
(中野, 2001)



●進行役 ○聞き手・参加者

《ワークショップ型》

## 2. 本研究におけるキーワード:「親性」「市民性」

### 「親性」の概念

次世代の再生産と育成  
のための資質  
(伊藤、2006)

- ・育ちゆく命である子どもを  
慈しみ育もうとする心性
- ・性別、年齢、能力、  
生みの親か否かにも関わらず、  
すべての人が持ち得る心性

### 「市民性」の概念

よりよい社会の実現を目的に  
社会の意思決定や運営に  
多様な関係者とアクティブに  
関わろうとする資質  
「シティズンシップ教育宣言」  
(経済産業省,2006)

国家から与えられた権利・義務の  
受益者として政府のサービスを  
消費するだけでなく、

コミュニティへの帰属意識を持ち、  
その運営に能動的に参加する  
社会の形成者、行為主体  
としての市民像

(嶺井,2007)

### 3. 研究の背景

#### ●市民に期待される 「親性」：

##### 1. 家庭的要因

家族形態の変化、世帯規模の縮小化

##### 2. 社会的要因

・国による「**家庭の教育力**」推進

→ “家庭の教育力は低下している” 認識  
(基本的生活習慣、人格形成、生きる力)

・超成果主義志向：

学力に加えた高度な人間力？

**国や社会が家庭に向ける期待 > 家庭の自助能力**

##### 3. 地域的要因

地域コミュニティの再構築への期待

#### ●市民に期待される 「市民性」：

他機関と「**連携する力**」

「学校（教員）」「家庭（保護者）」

「地域社会（市民）」との連携は

声高に叫ばれる

- ①それぞれの役割の自明性は明確でない
- ②各機関はどのような役割を果たせるか、果たし得るのか？

役割ラインの見直し、再構成を

当事者間で図っていく必要性

↓↓

(まずは) 他者と「**対話する力**」

→ **「ワークショップ」という方法の模索**

## 4. 本研究のねらい

社会全体で子どもの成長・発達を支える  
地域コミュニティの形成

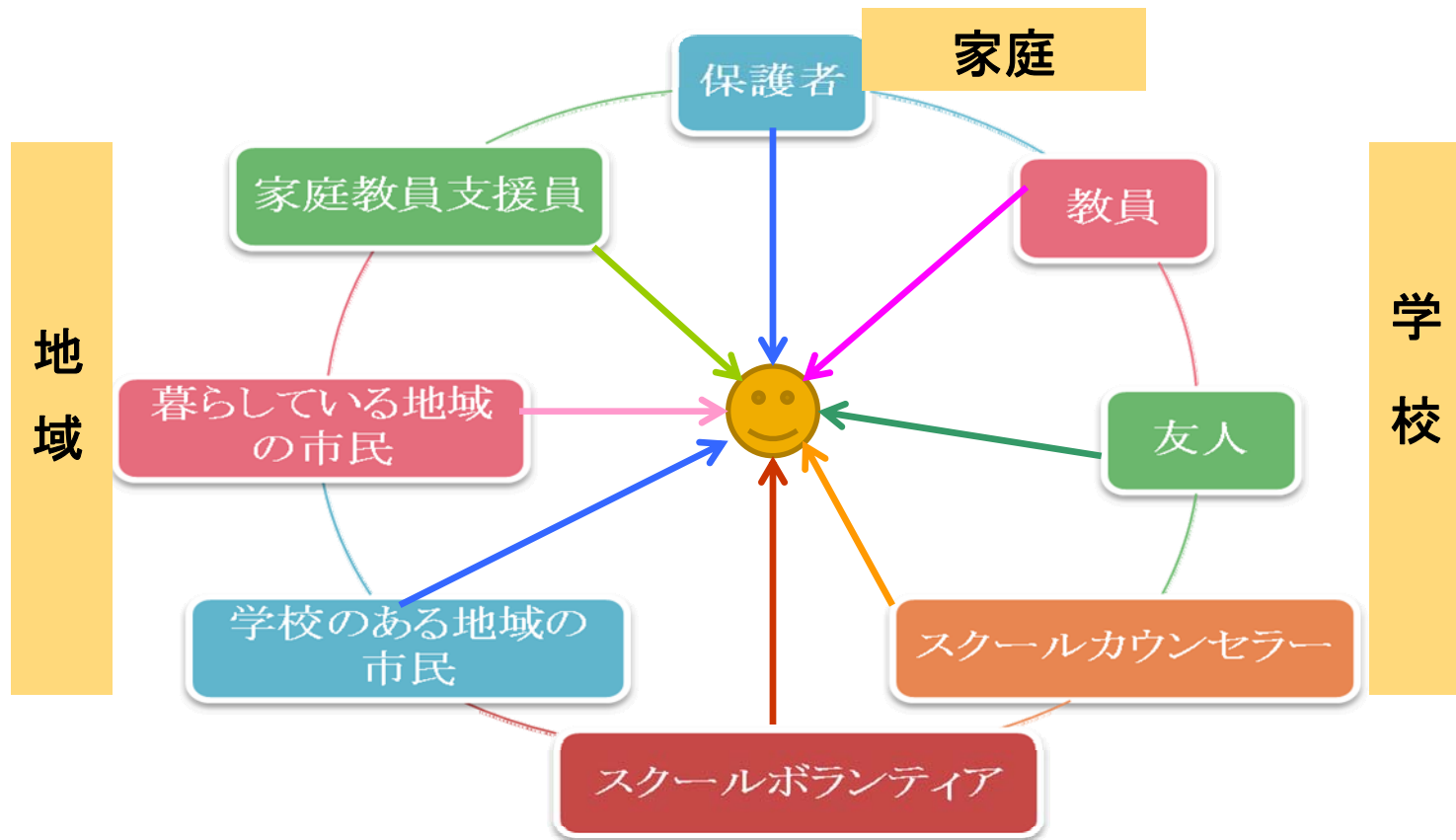


図1 本研究の「子どもへの支援的ネットワーク」枠組み理念

## 5. 実践のための方法:参加型ワークショップ

出所:中野民夫「対話する力」日本経済新聞社、2009より(本村加筆)

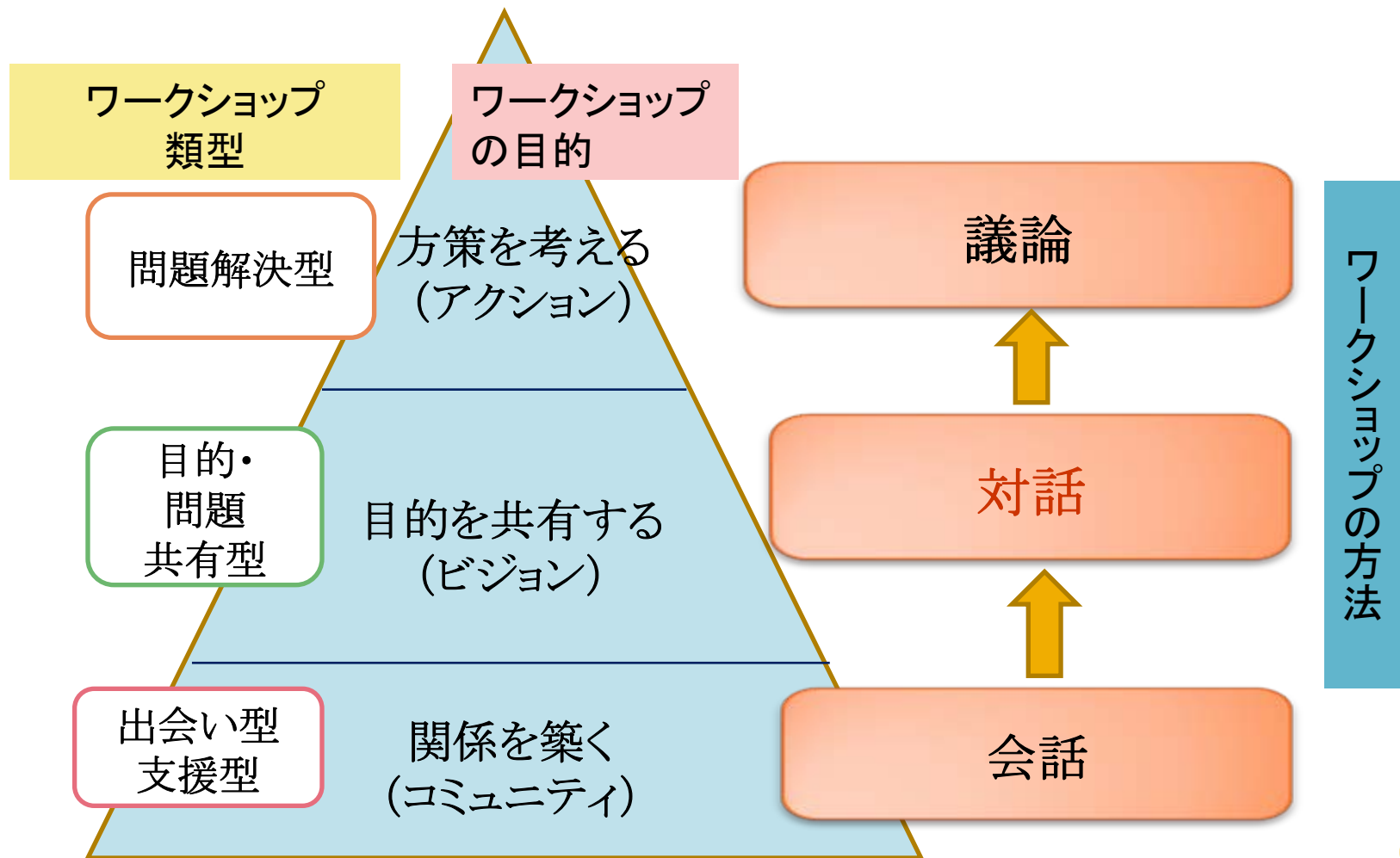
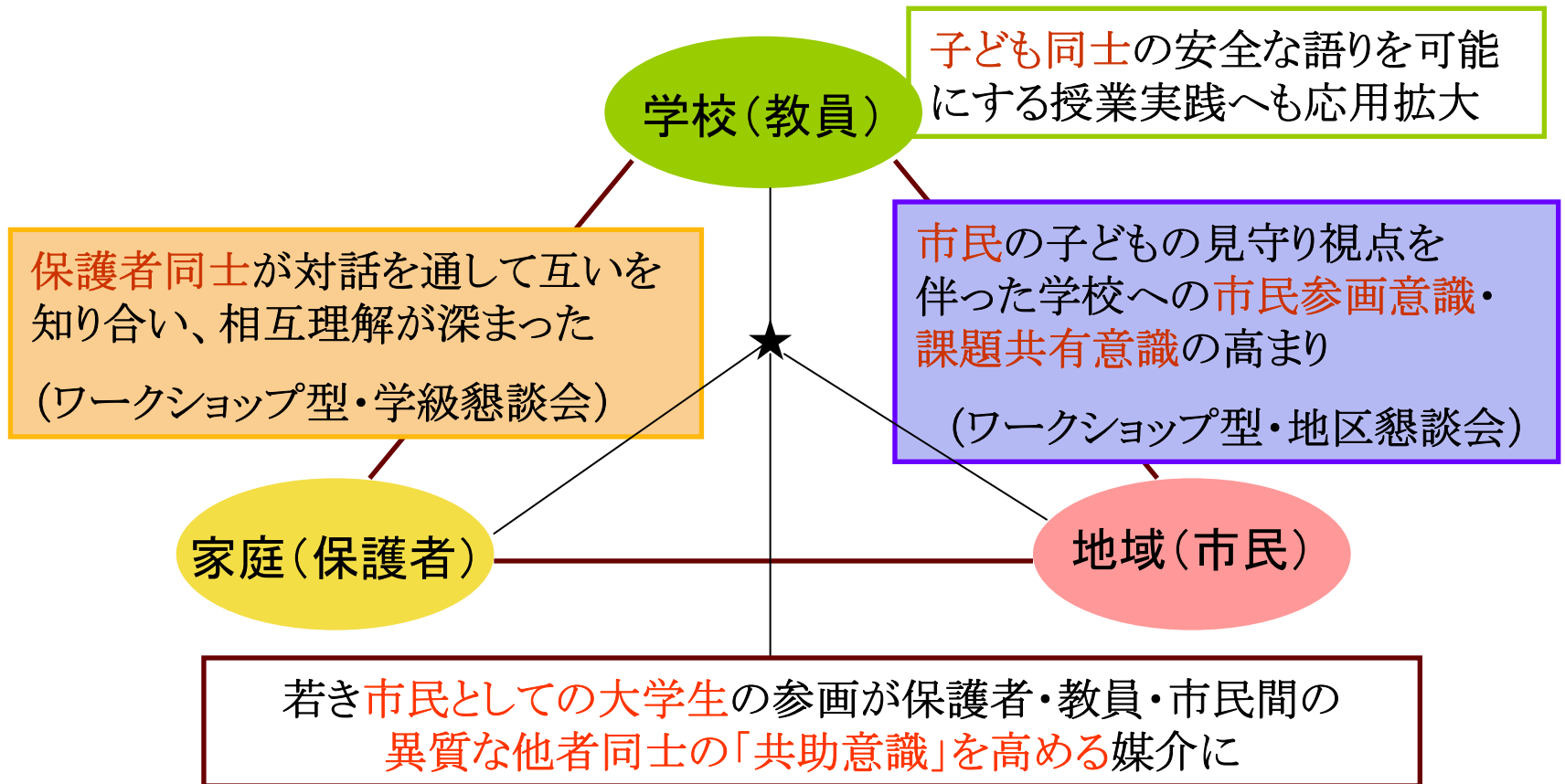


図2 本研究におけるワークショップの「目的」別にみた「類型」と「方法」

## 6. 主な研究成果

\* 学校教員への質的調査より



各領域のワークショップ型懇談会の推進は、参画者の市民の社会的子育て意識(親性)と、参画型市民社会に貢献し得る「市民性」の向上に貢献